

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
https://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com



台湾新北市新店区でどのような踊りを披露する安来市長（左から2人目）

安来節保存会会員の皆様におかれましては、日頃より安来節の振興をはじめ、市政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

初めに市の近況として、令和5年2月7日に台湾新北市新店区と友好交流都市覚書締結を取り交わしました。その際には伝統芸能である安来節を2会場で披露し、拍手喝さいをいただきました。また、私自身もどじょう揃い踊りを披露し、台湾の皆様喜んでいただき、改めて安来節の持つ素晴らしさを感じたところであります。

この度、安来市が表明いたしました安来節演芸館の休館についてご説明申し上げます。既にテレビ・新聞などの報道でご存じのことと思いますが、令和5年3月29日から令和6年3月まで、1年程度休館することとなりました。

会員の皆様をはじめ関係者の皆様にご心配をおかけすることとなりましたが、休館に至るまでの経



会長 田中武夫 (安来市長)

ごあいさつ

過についてご説明させていただきます。

安来節演芸館は、安来節の殿堂として平成18年1月にオープンし、当初、指定管理料は設定せず指定管理者を指定しましたが、運営面の厳しさから平成19年度より指定管理料を設定し、見直しを図りながら運営してまいりました。オープンから17年が経過し、施設が老朽化していたことから、令和4年度に改修が必要な空調設備をはじめ舞台照明・音響照明など設備等工事の基本設計を終え、営業を行いながら令和5年度以降に3、4年間で4億円程度の大規模改修を行うこととしておりました。また、並行して改修工事をスムーズに進めるために指定管理者と指定管理の延長に向けた協議をしてまいりました。指定管理者からはコロナ禍での厳しい運営状況を踏まえ、現在の指定管理料3,700万円より大幅な増額の要望がありましたが、市の考え方と一致するに至りませんでした。従いまして、令和5年度からの指定管理の延長は行わず、令和5年4月から1年間休館し、施設の設備改修工事に併せ運営改善の施策を検討し、新たな指定管理者を募集することといたしました。再開時期につきましては令和6年度以降を目指すこととし、設備改修後は、安来節の普及振興と魅力あふれる観光地づくりを目的とするともに、市民にも親しまれる施設となるよう、誘客促進を図ってまいります。また、安来節保存会の事務所につきましても、引き続き安来節演芸館の2階を使用させていただきますので、会議などの利用については引き続きご利用いただけます。

安来節保存会の皆様には安来節演芸館が1年程度使えなくなることににより色々ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

私と安来節

これからも
ずっと安来節



准名人 山本英三 (広島東支部長)

本年の唄い初め会に於いて、唄准名人に推挙いただきましたことは、身に余る光栄であり、指導部員の籍にある者として、重責に身の引き締まる思いがいたします。これも偏に諸先生方・諸先輩方・会員の皆様のご支援・ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

私の安来節との出会いは、三十八年前の山口県宇部市にあります。昭和五十年代の民謡ブームに感化され民謡を習い始めて七年後頃のことと記憶しているのですが、近隣の山口支部の方から、「近くの公民館で安来節の教室を始めますので来ませんか」とのお誘いをいただきました。これが私の安来節人生の出発点でした。その後、平成元年に会社より広島への異動を命ぜられ、広島東支部にお世話になることとなりました。安来節を今日までやってきて、本当に良かったと思う事があります。

昨年の四月に会社をリタイアし、サンデー毎日となりました。長年営業職でした。現役の頃は沢山のお客様にお会いしましたし、同僚・部下・上司、人間関係は人並み以上に広いと思っておりました。しかし、リタイアと同時に交流は実に希薄になります。今では安来節のコミュニティが私にとってかけがえのないものとなっています。職業や生立ち・生活環境など様々な人と集っての交流は実に楽しくすばらしいものです。受け売りになります。歳を重ねると「きょうい」と「きょうよう」

私が歩んだ 安来節への道



准名人 田中輝夫 (松江支部)

私の父は、安来節が大好きで仕事の合間や風呂で唄っていました。また、ラジオで安来節を聴いて、「これは誰の唄で三味線は誰だ」と母に言っていたのを覚えています。

さて、私が安来節を習い始めたのは、正に四十の手習いでした。家内が「時間があるから習いに行けば」と言ってくれ、知り合いで民謡を習う方がおられたので、教室を紹介していただきました。そこには、三味線が富田流の角田三夫先生と五、六人の方が勉強しておられました。現在、三味線を



いる方で、以前にギターもしていたという方は多いと思いますが、私もその一人でした。習い始めて半年、そこそこのメロディーは弾けるようになったが、唄に合わず、この人には合うが、あの人には合わないといった事がしばらく続きました。一年が経つ頃に先生から「審査会があるが、そんなことでどうする」と何回も言われ、私も困っていました。生徒の中に、二代目松尾先生がおられ、何回も唄ってもらいました。審査前夜にも、唄ってもらいましたが完璧ではなく、角田先生からは「頑張るしかないね」と言われ、少しショックでした。松尾先生からは「大丈夫だから自分の三味を弾けばいい」と言っていたいただきました。松尾先生に唄ってもらったおかげで、二級になりましたが、その年の終わりに頃でもまだ唄に確実に合う状態ではなく、やめようと思った事が何度もありました。また、同じ頃に教室の雰囲気がおかしくなり解散となってしまいました。生徒の中で「水曜会」というグループが作られ、私も入っていました。月二回の水曜会の練習も保存会も休まずに出る練習しました。その後、知り合いの方に「三味線の先生を紹介してあげるよ」と言っていたので、お断りしてしまいました。それでも早く上達したいと思っていましたので、松尾先生から貰った三代目富田徳之助先生や角田先生のテープを聴いては、時間を掛けて真似をし、男踊り、銭太鼓、あんこ等々、一節ずつ取っていました。それを松尾先生に唄ってもらい、とても練習になり、上達も早かったと思います。また、五代目富田徳之助先生、富田光雄先生にも短い期間でしたが習いました。そういつた三十数年の経緯があり、今は出雲正之助先生の唄で三味線を弾かせていただいております。

また、年始の唄い初め会では、絃准名人もいただき、誠にありがとうございます。私には、良き先生方に出会えて幸せだったので、あの時、やめずに頑張ってきた良かったと思っております。最後に迷惑をかけたのを見守ってくれた家族に感謝します。ありがとうございます。

思い出



梶 満代
（益田支部）

昭和五十一年頃だったと思います。専門農家婦人の楽しみとして、地元の知人二十人位で始めたのが、安来節教室でした。

二人の先生に指導していただき、昭和五十六年にやっと師範に昇格できました。

師範になってからは、地域の新年会や忘年会、福祉施設でのボランティア活動などにみんなで参加して、昭和、平成、令和と唄い続けてきました。その内、病氣入院等で参加する人がいなくなり、またコロナの影響もあり、すべての活動を自粛しなくてはなりませんでした。

早くコロナが終息し、また福祉施設の方々に唄や銭太鼓、どじょうすくい踊りを披露してあげたいと思っております。

この度、大師範に昇格できたのは、支部の皆様のご支援があったからこそだと感謝しております。

これからは、初心に返り大師範の唄の勉強をしながら、伝統ある安来節の魅力を若い方々に広めていけたらと思っております。



安来節との出会い



小谷 実
（松江支部）

今年の「唄い初め会」にて、唄・銭太鼓で大師範に昇格させていただき、誠にありがとうございます。

昭和四十年代後半、就職先の東京から島根に帰郷し、先輩から地元青年団へ誘われ、入団しました。

当初数人だった団員も二、三年後には百三十名余りの大青年団へとなり、現在審査員の濱崎氏とも共に活動し、スポーツ関連の県大会や全国大会に出場しておりました。

その後、スポーツ関連での参加は難しくなり、文化部門を見ていると銭太鼓を男女十数名で打っており、「これは面白いものだ」と気に入り、濱崎氏から故 小川千吉師匠を紹介していただき、昭和五十年に松江支部に入会しました。

最初は唄から習い始め、同時に青年団では、銭太鼓も習っていました。毎晩、練習をし、両親から「ずいぶん良くなったな」と言われたのを覚えています。

唄の初審査では、一級になり、濱崎氏より「カンタ（アナタ）はワシ（自分）を超えてしまわさつたのー（しまったの）」との言葉を頂いたことを今でも覚えております。

この年以降、毎年審査を受け、昭和五十八年に師範に昇格しました。しかし、仕事の都合で昭和六十三年から平成二十五年まで、あまり保存会の活動には参加することが出来ませんでした。家元一行のハワイ公演や保存会九十周年

記念「博多座公演」等には参加させていただきました。

平成十五年に濱崎氏より「来年、銭太鼓が正式種目入りし、格付け審査があるよ」とのご連絡があり、受審を決意し、猛練習しました。

翌年の銭太鼓の格付け審査では、師範に昇格することが出来ました。

平成二十六年からは、本格的に活動を再開させていただき、現在に至っております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

難しさが魅力



安達 順子
（本部道場）

私が安来節を始めたきっかけは三味線を弾きたいと思ったことでした。今は亡き三代目安達順吉先生に習い始め、しばらくした頃「三味線をするなら唄を知らんとだめだよ」と言われ、唄を始めることになりました。

私は安来で生まれ育ちました。学生時代と社会人になったとき県外にいた私は、安来の出身だと言うと、よく「安来節を唄ってみて」と言われました。唄うことはできませんでしたが、それほど安来節の知名度は高かったのです。

子どもの頃、桜の季節には社日公園はたくさんのお客で賑わい、多くの観客が集まる演舞場からは安来節が流れていました。夏の月の輪祭りでの安来節流しも、「エトヤエンヤ」の山車を引っ張りながら、三味線の二丁弾きの心地良

い旋律に子どもながらに惹きつけられた事を覚えています。そうやって、幼い時から何度も聞いていた私でしたが、まったく唄えませんでした。それほど難しい民謡なのだと思えます。

三代目先生に教わりながら、本心では仕方なく始めた唄だったのに、准師範までは全国大会の予選すら受けていませんでした。受けられるレベルでもなかったのです。

准師範くらいから、少しずつ分かるようになり、そこからやっと本気で勉強するようになって、今日を迎えられることになりました。

全国的に知名度の高い、安来の誇りである安来節。歴史もあり、とても貴重な素晴らしい文化です。しかし、とても難しい民謡です。

ただ、その難しさが惹きつけられる魅力でもあると思います。

先生方の教えをしっかりと引き継ぎ、魅力ある安来節を多くの方々に見聞きしてもらえよう、一層精進を重ねていきたいと思えます。

平成十六年からの安来節



幸 美中
（本部道場）

令和五年一月「唄い初め会」に於いて、唄 大師範に昇格させていただきました。身に余る事と恐縮しております。

私が初めて安来節を知ったのは、平成元年「ふるさと創生事業」として、安来市の各公民館で安来節教室が始まった事でした。ですが、すぐには入会せず、一年位してから

銭太鼓教室も始まると聞き、リズム楽器で楽しそうかなと軽い気持ちで銭太鼓だけをしていました。が、保存会には入会していませんでした。

今では「私しや出雲の安来の生まれ子唄から安来節」と唄っています。が、子供の頃、病気がちだった私は、島根県の三大民謡でもある安来節に触れる機会はなく、銭太鼓だけは、今思い返せば初めて審査を受ける平成十六年まで十六年も続けていました。その初審査の平成十六年に「銭太鼓の格付け審査があるから安来節の唄も知っておいた方がよい」と当時の先生に誘われ、銭太鼓「准師範」、唄「二級」から保存会の一員としてスタートしました。

年に一回の審査会、予選会、優勝大会のたびに先生の指導にも熱が入り、先輩方にも助けけていただき、順調に進む事が出来ました。一段階昇格する度に難しさはありますが、唄い手の上手い節回し、三味線の繊細なバチ捌き、鼓の先まで抜ける響く音、滑稽な動きを身体全体で表現する泥鰌掘り、練習に練習を重ね、努力された方々の安来節は本当に心から感動します。みんなで芸の向上を目指しながら地区文化祭や介護施設への慰問、また東日本大震災の被災地にも励ますつもりで行きましたが、辛い辛い環境にも負けない東北魂に触れ、反対に私達が元気を貰って帰ってきました。安来節に関わっていたおかげで人と人との温もりを実感し、たくさんの方々の安来節愛好者の友達も増え、私の人生の宝となりました。

今年こそは、対面での審査会、予選会、優勝大会が行われ、活気溢れる安来節保存会に戻り、皆様の元気な姿に出会える事を願っております。

私と安来節の出会い

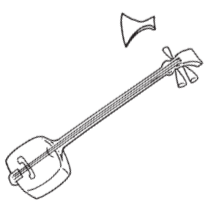


松本文子
（東京支部）

令和五年一月九日、唄い初め会で唄と絃の大師範に推挙していただき、誠にありがとうございます。諸先生方のご指導に深く感謝いたします。

私は、島根の生まれながら「安来節」とは縁が薄く、父が手拍子で唄っていたのを聴いていた程度でした。関東に上京し、以前から興味があった三味線を習い始めました。その後「親戚の結婚式で安来節を唄うから三味線を弾いてくれないか」と父に頼まれ、軽い気持ちで引き受けた結果、なかなか合わせどころがわからず断念してしまいました。その事はすっかり忘れていましたが、どじょう掘り踊りを通して東京支部に入会し、唄、絃、鼓、銭太鼓と習い始め、師範に昇格しました。あの時、父の唄に三味線が付けられなかった事が今ならわかります。安来節は他の民謡と違い、とても奥が深いという事、だから面白く夢中になります。

これからは、東京支部と一緒に頑張っている皆様に安来節の面白さや楽しさを伝授しながら、少しでも貢献していけるように努めて参ります。





踊 大師範
齋藤 政昭
(関東支部)

この度、関東支部のご推薦を頂き、安来節保存会よりどじょう掬い踊り大師範に昇格させていただきました。これも偏にご指導をいただきました三代目出雲愛之助先生をはじめ、関東支部の皆さま方、そして諸先輩方のおかげと感謝しております。本当にありがとうございます。

さて、私と安来節(どじょう掬い踊り)との関わりは、仕事の関係で東京に単身赴任をした際に、友人の誘いでたまたま見学に行っていたことがきっかけで二十九年目になります。退職後の現在、朝食前の安来節の練習は、生活にメリハリが付き体のリズムを整えてくれます。大好きな安来節のおかげで明るく・元気で・充実した日々を送っています。

一方、これまで個人の地域コミュニティケーション活動として、市民センター、公民館及び各種団体等で、笑いの出前講座を実施してまいりました。その中で、どじょう掬い踊りの体験や披露及び安来節保存会についても紹介させていただいており、私のライフワークとなっております。

微力ながら、この活動を今後とも積極的に継続し、安来節のPRと発展に少しでも寄与できれば幸いですと考えています。これらかも、安来節と仲間感謝しながら、どじょう掬い踊りで笑顔の輪を広げていきたいと考えています。



踊 大師範
吉川 静樹
(神門支部長)

この度、踊大師範位を拝受させて頂きました。そして、「唄い初め会」での授与式並びに踊の披露の場を設けていただき、身に余ることと感謝し御礼申し上げます。

【安来節との出会い】

昭和五十二年、弟の結婚式の祝い唄として当時の神門支部長であった故勝部知氏が唄った節回しにすっかり魅了された私は、自らも氏の前で唄ったところ、「一節目は上手いが、二節目は下手だ、図体がでかいがどじょう掬いもやってみたら」と言われ、すっかりその気になり、かくして道を楽しむ「道楽」へと進みました。

【担い手育成】

少子高齢化による人口減少の今日、地域の文化活動のけん引役として児童へ安来節を指導することにより、青少年の健全育成と郷土芸能の継承のために貢献したいと考えてようになりました。そこで山陰を代表する民謡「安来節」の担い手を次の世代に繋ごうと、平成十三年から現在までの二十二年間にわたり、佐田町内の児童、生徒等を対象に、安来節教室を開設し、毎月二回、唄、どじょう掬い踊り、銭太鼓、鼓の指導を行っています。

【安来節で国際交流】

平成十五年にイスタンブールで開催されたジャパンウィークに佐田町安来節連合会のリーダーとして唄、銭太鼓、どじょう掬い踊り

を披露し、日本文化の理解と交流にも一役買うなどの国際交流事業を行っています。

【全国へ発信！】

平成二十年にはNHKTV「それいけ！民謡うた祭り」に出演、平成二十五年には、全国優勝大会少年の部で優勝した児童が、フジテレビ「笑っていいとも」に出演。さらに平成二十七年には、同テレビの「二十七時間テレビ・ダンス選手権」に山陰代表として出場。いづれも、どじょう掬い踊りを披露しました。

【さあ、今年こそ！】

令和五年二月十二日 小松市市民会館「民謡愛知・岐阜連合大会(公益財団法人日本民謡協会主催) 高年の部唄」で優勝しました。十月六・七・八日、品川区立総合市民会館きゅりあんホール「令和五年度民謡全国大会東海地区高年の部唄」へ正調安来節で出場します。



踊 大師範
下谷 勲
(広島東支部)

この度、広島東支部より推薦をいただき、心技共に未熟ながら、銭太鼓 大師範位を拝受いたしました。これも偏に先輩の先生及び関係者の皆様のご指導の賜と感謝申し上げます。身に余る光栄と共に責任の重大さを感じております。これからは、技量に一層の磨きをかけ大師範の名に恥じないよう初心に返って稽古に励み、安来節の伝承と普及のため、微力ながら努

力する所存です。

安来節との運命の出合いは、昭和四十七年四月で、今年で五十二年目になります。習い始めたきっかけは、職場の先輩から「安来節を習ってみないか楽しいよ」と声をかけられた事でした。踊と唄から始め、次第に種目も増え、今では全種目に挑戦しています。どの種目も奥が深く課題も多くて簡単なものではありません。

平成十六年、銭太鼓の種目が正式にスタートした年の「格付け審査」を受審し、三級に格付けされました。その後、幾多の難関を乗り越え、平成二十三年五月、師範に昇格出来ました。私に元氣と勇氣を与えてくれたのは、五種目の中の特に銭太鼓です。中でも、安来節全国優勝大会の銭太鼓の部で、平成二十年から支部の皆さんと連続十一回出場させてもらった事が大きな自信となりました。体力と気力の許す限り継続していきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、去る一月九日の唄い初め会で上位昇格者披露出演にご協力賜りました皆様には、大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。



踊 大師範
角田 恵子
(東京支部)

この度、東京支部のご推薦により、銭太鼓 大師範に昇格させていただきました。柵橋先生をはじめ

め、斉藤和子先生、指導部の先生方、皆様方の御指導のお蔭と深く感謝いたしております。

安来節との出合いは、普段買物に行く店のカルチャーでたまたま「どじょう掬い踊り」講座が目にとまり、何か隠し芸になるものはないかと思っていたことと、出身が島根であることもあり、一日体験に参加したことです。それが、二十四年前の卯年の一月のことです。それから踊りを続け、数年後に柵橋先生から「近くで斉藤先生が銭太鼓教室を開かれるから」と勧められ、楽しみにしていた銭太鼓を習うことになりました。最初はうまく回すことから出来なかったのに二カ月後には支部の発表会に「出来なくても大丈夫だから出なさい」と言われ、順番を覚えるのに必死で先輩を見ながら一生懸命に打ったことを今でも懐かしく思い出します。この時に、少し度胸がついたのかもしれない。

その後、保存会の種目に銭太鼓が加わることになり、最初の受審から六年後に師範に昇格させていただきました。本当に喜びました。まさか「大師範」など夢にも思っておりませんでしたので、私ごとが：という思いです。一緒に練習に励んだ皆様感謝しつつ、今後一層精進して参りますので、よろしくお願いいたします。



感動を呼ぶ 音色と 響き 丹念な加工 調整 仕上げ

有仁ホニ味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796
HP <http://www.syamisen.com/>

明るく元気が一番!

令和6年度♪創立30周年に
向けて突っ走るぞ~!

和歌山支部

安来節は 元氣の源



西下 信男
(仁多支部)

「わしの生まれは 広島生まれ
習い唄うよ 安来節」

昭和五十年九月初旬、米子営業所設立メンバーの顔合わせのため、松江市に向かい広島を出発しました。途中、宍道湖畔の月山大名というドライブインで昼食を取っていると店内に隠岐民謡(きんにやもにや)が流れていました。続いて流れる民謡は窓の外に広がる景色に溶け込んで「唄と景色が融合しているな」と感じました。制作が山陰放送「山陰の民謡」と銘打ったレコードで、即購入して聞き込みました。当然安来節も挿入されていましたが、頭のテッペンからでるような声と難解な節回しは異次元のモノに思いました。安来節の世界!

された「どじょうすくい踊りの小学生」藤原恵太さんが高校生となり、練習を継続されていて、その踊りを鑑賞するのも楽しみとなりました。七十歳過ぎの初挑戦です。加えて六十歳の誕生日を目前にして脳梗塞で一カ月の入院、腹筋に力が入らず、発声困難に陥り、音域は減少し、息も続かなくなり、何度となく以前の様に唄うことが出来た夢を見ました。安来節の練習のおかげで音域と息継ぎは回復しつつあり、諦めず挑戦して良かったと思えました。ワンランクでも上を目指し、安来節生活を楽しみたいと思っております。

私と安来節



輪玉 真知子
(和歌山支部)

ドーン ツ テン ツ ドン
ツン テン

「こんなもあるんやで、安来節っていうの」と、楽しみに弾いてくださった先生。五年程前、民謡に興味を持ち、習い始めた頃のこと(変わったフリースだけ有名などじょう掘いの曲なのね)と、知ったもの、さして興味を持つ訳でもなかった私でしたが、なんとなくその時の記憶が残っていました。月日は流れ、民謡を教わりながら、三年程経った頃、安来節のお稽古に参加させていただける機会があり、そこで初めて素唄を弾いてみたり、皆さんの唄を聴かせていただいたり、回数を重ねる毎に単純なようで複雑な、その魅力に引き込まれていったのです。とはいっても、所詮まだ二年、

コロナの中二度あった資格審査もビデオのみ、本場の安来は素晴らしいと、周りの方々から話を伺うものの、行くことも叶わず、憧れが募るばかりでした。そんな折、今年二〇二三年の唄い初め会が開催されるとのこと、そして、その支部競演で三味線を弾きに行かないかとお声掛けいただき、二つ返事、飛び上がって喜びました。一月九日、その舞台では、不思議な感覚に包まれました。客席で応援してくれる仲間や先生、当たり前前なのだけど、同じ空間、同じ安来という空気に馴染んでいる、三味線も私も自然とそこに居て、その心地良いところで、自分の掛け声から始まる安来節をとっても楽しく演奏させていただく事ができたのです。(下手なりに、今の自分では◎、笑)

あつという間、ほんの一瞬の舞台でしたが、一步、安来節に近づく事ができたかなと、ますますこの世界にハマっていく自分を感じながら、こんな素敵な体験をさせてくださった先生方、民謡仲間、そして行かせてくれた家族に心から感謝する一日となりました。何の経験も知識も知り合いも無く始めた民謡。でも、大好きな和歌山の皆さん、そして誰よりも私を引っ張ってくれる先生との出会い、そんな大きな宝物をもらった私だから、こんなにも楽しみ、勤しませてもらっているのだと思います。ふしぎな魅力とじまんの節回しわらって集う仲間と共にらいせに届く唄声をお稽古の笑顔が、ちいきの民謡。こころ惹かれる三味の音と詠ってみました先生のお名前(笑)。いつか、師範をとれた暁には、安来節に乗せて唄わせてもらいたいな。

支部情報

紆余曲折のおさらい会



藤原 朔子
(神戸支部長)

まだまだコロナ感染症が予断を許さない状況の中で去る九月十一日おさらい会を実施しました。久しぶりに会う会員たちとマスク越しから元気な声を聞き、安堵しつつ、プログラム(唄、絃、錢太鼓、踊り、民謡、合唱、童謡など)に添って日頃の鍛錬と稽古の成果を力いっぱい発揮する姿を見ているうちに「あの人あんなに上手だったん? (失礼!)」と応援して下さる会員の声を聞きながら、お互いの気持ちとかがゆきかう雰囲気を感じて、やはり見て頂く方が

ちがいてこそその安来節だなあと感じました。おさらい会に神戸支部長の姿がなかったのはとても残念でしたが、今頃は天国で思いっきり安来節を唄っておられることでしょうか。前、井村支部長が亡くなり、九月に神戸支部長が亡くなり、神戸支部は大海の小舟の様で、また会員の減少の追い風もありましたが、今は順風漫步、お互い楽しみながら「数は力」で会員増強に努めながら皆で頑張っております。物づくり一筋の九〇歳の方のお話を伺った時「一流という域に到達するにはほど遠いものだが、何を成し遂げるにも成長したいという強い意欲が必要だと思っている」と話されたことに、今なお修行やと打ち込む姿に大切なことを学ばせて頂きました。私は失敗と反省の日々ですが、伝統文化・安来節がみんなに好かれ継続していくことを望んでいます。



令和5年「唄い初め会」支部競演結果

- | | | | |
|------------|-------|----------|------|
| 安来市長賞 | 斐川支部 | BSS山陰放送賞 | 松江支部 |
| 安来市議会議長賞 | 関西支部 | 足立美術館賞 | 神門支部 |
| 安来市観光協会賞 | 本部道場 | 家納喜賞 | 益田支部 |
| 安来商工会議所会頭賞 | 和歌山支部 | 安来節演芸館賞 | 宮島支部 |

訃報



唄名人
小泉 宣明 さん
(八十五歳)

が令和四年十二月二十八日逝去されました。小泉さんは、指導部長などを歴任され、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。